

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371300163
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 誉ヶ丘
訪問調査日	平成 19 年 6 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月12日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	有限会社 ユニゾン
事業所名	グループホーム 誉ヶ丘
所在地	熊本県宇城市豊野町山崎1728-1 (電話) 0964-45-3006

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205
訪問調査日	平成19年6月28日

【情報提供票より】(19年 6月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14.5

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	狩場医院・宇城市民病院・近藤クリニック・吉永歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜の名所誉ヶ丘公園等の自然豊かな環境という立地条件をうまくケアに活かし、入居者の意思の尊重と、運営理念又介護理念の実現に、管理者はもとより職員全員が共通認識で取り組み、「個」としての入居者主体の生活を支援している。
 管理者の経験を惜しみなく発揮し、単独ホームとして健康管理や安全面へ万全の体制で臨まれていることが業務日誌や詳細な個人記録から窺えた。地域に根ざしたいと多方面へ積極的な働きかけがなされており、現状維持と更なる発展に期待したい。
 職員の入替わりも少なく、入居者となじみの関係が築かれ、職員の“笑顔”での対応と気さくな態度や会話が入居者との関係を穏やかなものとし、入居者の笑顔を引き出し、入居者・職員の“笑顔”が特徴のホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>看板の設置や意見箱を玄関に設置したり、業務日誌による申し送りであった事から、申送りの確実性と責任感を持たせるため確認欄を作り情報の共有化とする等昨年の外部評価を真摯に受け止め多くの改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の前に取り組み方や意義を全職員が認識・理解する事から再スタートし、ユニット毎に意見を出し合い、管理者が纏め上げたものである。現状に満足する事無く、厳しい自己評価を行い、次へのステップと位置付け取り組まれている。外部評価の結果も全職員の共通認識として分析・改善が図られている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は通算3回が開催され、行政・地区代表・民生委員・入居者・家族等の参加のもと有意義な会議であった事が議事録で確認できた。参加者からの意見や要望がサービス改善に活かされ、経過報告もされている。今年度より、奇数月の日曜日開催が了承されており、継続した取り組みが期待できる。地域に根ざすことを目指しており、今後も継続した働きかけに期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月近況報告書(健康状態・日常の暮らし振り・職員の異動等)を送付し家族への安心へ繋げている。運営推進会議を家族の意見や要望を出してもらう機会と捉え、全家族への出席の声かけにより、多くの家族の参加が得られ、運営へ反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会加入や小学校との交流又環境美化活動に参加し、地域の方々との交流の促進に努めている。商工会や婦人部のボランティアとしての訪問もあり、地域に根ざしたいと中学生の職場体験の受入れや夏祭りが計画されており、今後が期待できる。</p>

2 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型に移行したことで、新たに地域と共に支えあうホームを目指す事等運営理念に取り入れ、笑顔・楽しさ・無限大・良く笑うこと等のホーム独自の介護理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念や介護理念を掲示すると共に、名札にも介護理念を書き入れ、常に意識を持ってケアに当たっている。入居者の意思を尊重し、「個」としての入居者主体の生活と家庭的なホームを目指し年間目標や月間計画等目標を持ったケアの実践である。理念の実現へ向けた取り組みであることが職員の様子や聞き取りで確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校との交流や自治会には2箇所に分分ずつ加入し両方の寄り合いにも参加したり、環境美化活動に参加し交流の一環としている。地域に根ざしたいと民生委員や中学校等にも積極的に働きかけ、ホームの還元として介護の話など出来ないか等依頼中のあるが、中学校の職場体験の受入れが予定されている。運営推進会議での指摘により、今年度は夏祭りを予定し、地域との交流の一環として役立てたいと取組まれている。	○	多様な計画が進行中ではあるが、商工会や婦人部等のボランティアとしての訪問があり、それらをきっかけに更に地域との交流手段として、認知症の理解を深める為の勉強会等検討され企画・参画されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の取組み方や意義を全職員が認識・理解する学習会を持ち、ユニット毎に1項目ずつ意見を出し、管理者がまとめ上げた自己評価である。又評価を分析し、指摘項目も全職員に開示し、改善できる項目から一つひとつ取組まれている。昨年度の外部評価指摘項目を真摯に受止め、多くの改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は通算3回が開催され、行政・地区代表・民生委員・入居者・家族等多くの参加と意義深い会議であった事が議事録で確認できた。参加者からの意見や要望・評価等サービス改善に活かされ、経過報告もなされている。今年度は奇数月の日曜日開催も了承されており、継続した取り組みが期待できる。	○	意見や要望等回を重ねるごとに出てきている。計画性を持った会議となるよう年間テーマを決める等意欲的である。家族の参加の多い事もこのホームの特徴でもある。運営推進会議が家族同志の交流の場であり、今の所、家族会の設置には至っていない。この会議を通じて家族会の立ち上げの機会としていただくと更に意見や要望が出てくる事が期待できる。ホームとしてご尽力いただきたい。

グループホーム 誉ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や市の連絡協議会又研修等を通じた交流が持たれ、地元の他事業所との情報交換により質の向上を図っている。現在町の連絡協議会の立上げの推進委員として、管理者は奮闘されている。市からも入居希望者の紹介等の情報も得ている。	○	更にホームとしてできる事は無いか、市町村に問い合わせをされ、積極的な関わりができる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問時に家族と個別面談を行ったり、毎月近況報告書を送付している。金銭管理も個々に管理ノートを作成し、家族の確認をもらう体制が構築している。ホームページは作成途中にあり、更に遠方の家族との交流の一環としていきたくと家族ごとにIDコードの付与が検討されており今後が期待できる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を家族の意見や要望を出す機会と捉え、全家族へ出席の声かけをし、多くの家族の参加が得られている。又、昨年の評価を受け玄関に手作りの意見箱を設置したが、余り意見等は入らない状況にあり、訪問時に意見や要望等を聞くよう心がけ、出された問題には改善策を検討し、家族の声を反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの職員は固定化されており、職員の異動等代わることで不穏になられる事などよく認識されている。今のところ離職者も少なく、馴染みの関係が継続され、一つの家族としての関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験を積んだ職員が多く、日常のケアや申し送り時に管理者が助言や指導を行っている。毎年職場内学習会を計画し、月1回テーマに沿った勉強会が行なわれ、項目毎の課題に応じ担当者も替え、個々のスキルアップができるよう工夫したものとなっている。外部研修としては職員の県主催の実践者研修等の申込みもしているが、今のところ参加に至っていない。職員の聞き取りからも、資格取得に向けカリキュラムを組んで勉強していこうと意欲的な姿勢が窺えた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や他のグループホームとの相互訪問を通じて、質の向上に努力している。他のホームの職員と入居者の訪問もあり、ケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当者が自宅を訪問し、本人・家族の意向を把握し、ホームを見学してもらい、本人の意見や反応を観察し納得した上での入居としている。今までに家族主体での入居となったこともあり、一日体験を通して納得した入居へと改善している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、ゆっくりと一人ひとりに向き合い、生活歴から得た情報や職員の観察により入居者の得意分野が活かされ、個々のできる事を中心に多くの出番の機会を作り、自信や満足感へと繋げ、家族・親子のような関係で共に支えあいの生活が垣間見られた。得意分野の中でも、職員が学ぶ事も多いということで、師としての関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時本人・家族の希望や意向を把握し、入居後も言語的コミュニケーションが困難な入居者や意思表示が明確でない場合等も表情等から把握し、ケース記録に残す事で情報の共有化が図られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からニーズを踏まえ、又24時間アセスメントをすることで職員が入居者の日々の状況や思いを把握し、カンファレンスを行い、職員の意見やアイデアが随所に反映された介護計画を作成している。個別援助への取り組みが介護計画にも表出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、2ヶ月毎のケアカンファレンス又問題発生時の随時のカンファレンス等により、見直しが行なわれている。カンファレンスも入居者・家族の満足したものとなるよう入居者も交えて行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による受診への対応や理美容への対応又買物支援等柔軟に対応している。更に多機能性を十分に発揮したいと、現在模索中でもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町外からの入居者が多く、本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を設けている。協力医院との連携により24時間対応可能や定期的な往診又歯科往診も取り入れ、入居者とホームそしてかかりつけ医との関係構築により、家族への安心感へ繋げている。かかりつけ医も家族への説明を十二分に取られる事もまた家族の安心となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期については説明し、必要に応じ同意を得ているが、現時点では実施は無く、方針の共有化までには至っていない。職員も「一緒に生活しているので、最後まで見ていきたい。」と意欲的でもあり、今後は重度化や高齢化が進む中において、全職員の理解や認識を共有し、レベルアップに努められる事を期待したい。	○	家族や協力医院と話し合い、安心した生活が長く続くことを期待したい。チームケアの確立を目指されており、推進していただき、全職員が共通認識で当られることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関へ「個人情報の保護」の方針を掲示し、「業務マニュアル」により全職員へ意識付けをし、評価をしあいながらのケアの実践である。職員の明るい声かけは入居者に活気を与え、目線での対応や手引きの際の優しさ等々から一人の大先輩としての尊敬の念を持ってケアにあたっておられる事を確認した。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも“個を大切に”と謳っており、個別援助を基本としたケアが行なわれている。個々の思いの表出と自己決定に努め、出来る限り本人主体の生活が出来るように、本人のペースや希望に沿ったケアがなされている。生活歴等の情報を把握し、個々に応じた楽しみごとの支援が訪問時にも見られた。		

グループホーム 誉ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回の嗜好調査と日々の聞き取りの中で栄養士が献立を作成し、一緒に買物へ出かけ、職員と共に調理の準備をしたり、配膳・下膳又食器洗いや台拭き等々個々ができる事を中心に自主的に行なわれている。男性の入居者も食器洗いに取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・午後希望の時間に毎日支援している。時間が集中するような日にはくじ引きにより入浴してもらっている。入浴拒否の場合には、強要せずゆっくりと散歩していただくと、自分から「汗をかいたから風呂にはいろうか」と言われるようになったとのことである。夏場は汗をかいたからと何度も入浴されたり、菖蒲湯やゆず湯又バラ風呂等「節目行事」「季節感」への対応も取られ、楽しみの一つとなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本情報の中で各々の生活歴や特技を把握し、得意分野や生きがいを見出し多くの機会が作られている。編物や書道・華道やはり絵又野菜作り等職員と一緒に言ったり、個々の能力に応じて料理や洗濯物たたみ等により自信の回復や、メリハリのある生活・楽しみながらの生活を支援している。廊下に掲示されている貼り絵は町の文化祭に出品された大作で、緻密な作業に全員の協力の賜物である事が窺われた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地条件をフルに活用し、天気の良い日は散歩や野菜作り等一人ひとりの希望に対応している。買物も近くのアグリパークまで散歩を兼ね支援している。又毎月計画した外出支援を行ったり、家族同伴での日帰り旅行も行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りや鍵をかける事の弊害を全職員が認識し、施錠の無いケアを実践している。外出したい入居者へも職員の気づきにより、見守りや寄り添いで一緒に散歩するなどの自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練要項やマニュアルを作り、年2回昼・夜を想定した避難訓練を実施している。消防から来所しての救急法やAED操作等の訓練も行ない緊急への体制も整っている。	○	地区長や近隣への要請は出来ているが合同訓練までには至っていない。地域の方々と協力体制を確立し、合同訓練が実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間援助記録の中にバイタルと共に食事摂取量を記載し、健康管理を行なっている。又看護師や栄養士の指導や病状によりドクターの指示を受けカロリーを抑える事で改善したり、入居者の状態により刻み食や粥食へ変更する等個別対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境の中、室内は明るく、玄関には季節の花が活けられ家庭的な環境を醸し出している。両ユニット共に和室やリビングでゆっくりと好きな場所で過ごせる工夫が施されている。又広い廊下の壁を利用し、写真や入居者の作品を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の持込を家族へ依頼し、家族と職員の協力のもと居心地よい環境を支援している。自宅からの使い慣れた品物があることで、自分の部屋の認識が深まり、帰宅願望も少なくなる等良い効果となって表れている。		